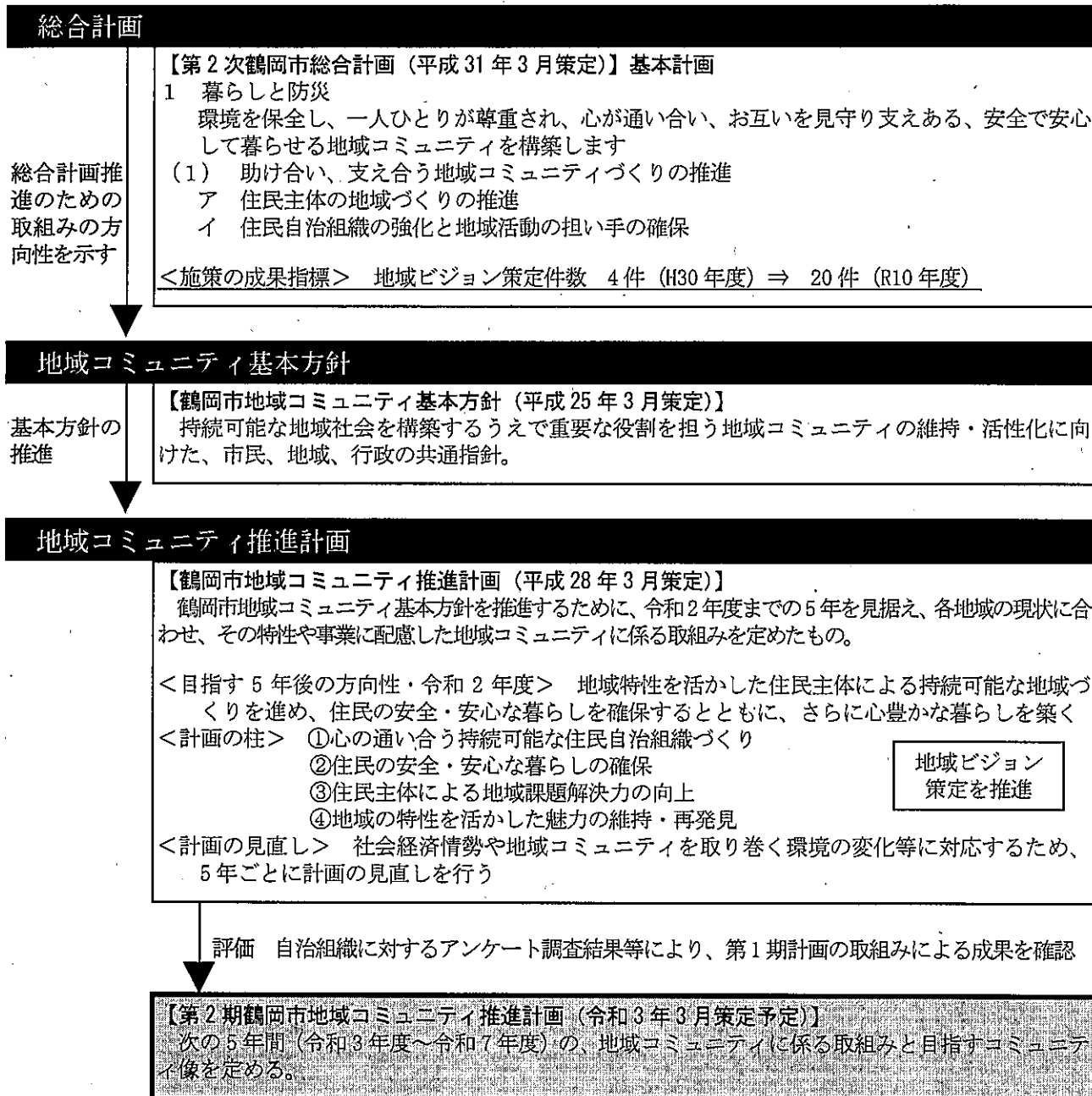


第2期鶴岡市地域コミュニティ推進計画の策定について

市では、安全で安心して暮らせる地域コミュニティを築くため、鶴岡市地域コミュニティ推進計画を策定し、平成28年度から令和2年度までの5年間を取組期間として進めてきました。

今年度は第1期計画の最終年度となることから、これまでの取組みの成果を検証するとともに課題等を整理して、第2期計画を策定するものです。

1 第2期計画の位置づけ



計画における基本方針（平成25年3月策定）は継承し、推進計画に示されている「社会経済情勢や地域コミュニティを取り巻く環境の変化等に対応するため、5年ごとに計画の見直しを行う」に基づき、今後5年間の取組みを新たに定めることとしています。

（令和2年1月30日開催の鶴岡市地域コミュニティ活性化推進委員会で協議済み）

策定作業スケジュール(案)

		6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
内容	住民組織等	課題と取組の評価・検証										
		住民自治組織にアンケート調査を実施 →取りまとめ/評価・検証										
策定活動	市	計画の柱・課題と取組の洗い出し										
		関係団体等にヒアリングを実施し、意見を集約 →地域課題の整理(継続・新規) 市の施策の実績等作成/評価・検証										
地域コミュニケーション活性化推進委員会		計画案の作成・検討										
		関係各課WS →他計画との整合性 →計画案の作成 第1回幹事会 第2回幹事会 第3回委員会 ・地域の課題と取組 ・全体の課題と取組 パブリックコメント 最終調整・確認 第4回委員会 ・計画の最終案										

地域の世帯数、人口、人口構成の推移

①鶴岡地域

	平成7年 国勢調査	12年 国勢調査	17年 国勢調査	22年 国勢調査	27年 国勢調査	令和2年 住基台帳
世帯数	31,084	32,825	33,991	34,116	34,307	36,932
総人口	100,538	100,628	98,127	95,209	91,818	89,062
0～14歳	16,873	15,354	13,846	12,521	11,203	10,222
割合(%)	16.8	15.3	14.1	13.2	12.2	11.5
15～64歳	64,396	62,797	59,635	56,370	52,397	49,429
割合(%)	64.1	62.4	60.9	59.3	57.3	55.5
65歳～	19,269	22,408	24,512	26,089	27,861	29,411
割合(%)	19.2	22.3	25.0	27.5	30.5	33.0
年齢不詳	-	69	134	229	357	-

②藤島地域

	平成7年 国勢調査	12年 国勢調査	17年 国勢調査	22年 国勢調査	27年 国勢調査	令和2年 住基台帳
世帯数	2,802	2,945	2,965	2,973	2,926	3,203
総人口	12,414	12,294	11,595	11,064	10,216	9,909
0～14歳	2,063	1,839	1,609	1,468	1,230	1,053
割合(%)	16.6	15.0	13.9	13.3	12.0	10.6
15～64歳	7,569	7,325	6,754	6,299	5,543	5,134
割合(%)	61.0	59.6	58.2	56.9	54.3	51.8
65歳～	2,782	3,130	3,232	3,297	3,442	3,722
割合(%)	22.4	25.5	27.9	29.8	33.7	37.6
年齢不詳	-	-	-	-	-	-

③羽黒地域

	平成7年 国勢調査	12年 国勢調査	17年 国勢調査	22年 国勢調査	27年 国勢調査	令和2年 住基台帳
世帯数	2,181	2,209	2,273	2,330	2,287	2,592
総人口	9,988	9,616	9,323	9,059	8,529	7,934
0～14歳	1,758	1,490	1,264	1,119	953	870
割合(%)	17.6	15.5	13.6	12.4	11.5	11.0
15～64歳	6,003	5,587	5,416	5,249	4,558	4,172
割合(%)	60.1	58.1	58.1	58.0	54.8	52.6
65歳～	2,227	2,539	2,643	2,687	2,804	2,892
割合(%)	22.3	26.4	28.3	29.7	33.7	36.5
年齢不詳	-	-	-	4	214	-

④権引地域

	平成7年 国勢調査	12年 国勢調査	17年 国勢調査	22年 国勢調査	27年 国勢調査	令和2年 住基台帳
世帯数	1,863	1,912	1,954	1,995	1,979	2,226
総人口	8,742	8,536	8,320	7,794	7,244	7,029
0～14歳	1,588	1,407	1,163	973	853	810
割合(%)	18.2	16.5	14.0	12.5	11.8	11.5
15～64歳	5,309	5,013	4,772	4,470	4,007	3,672
割合(%)	60.7	58.7	57.4	57.4	55.3	52.2
65歳～	1,845	2,116	2,385	2,351	2,384	2,547
割合(%)	21.1	24.8	28.7	30.2	32.9	36.2
年齢不詳	-	-	-	-	-	-

⑤朝日地域

	平成7年 国勢調査	12年 国勢調査	17年 国勢調査	22年 国勢調査	27年 国勢調査	令和2年 住基台帳
世帯数	1,417	1,367	1,316	1,259	1,190	1,291
総人口	6,309	5,864	5,378	4,798	4,295	3,859
0～14歳	1,098	874	669	509	410	349
割合(%)	17.4	14.9	12.4	10.6	9.5	9.0
15～64歳	3,640	3,308	3,026	2,681	2,271	1,845
割合(%)	57.7	56.4	56.3	55.9	52.9	47.8
65歳～	1,571	1,682	1,683	1,608	1,614	1,665
割合(%)	24.9	28.7	31.3	33.5	37.6	43.1
年齢不詳	-	-	-	-	-	-

⑥温海地域

	平成7年 国勢調査	12年 国勢調査	17年 国勢調査	22年 国勢調査	27年 国勢調査	令和2年 住基台帳
世帯数	3,312	3,122	2,992	2,838	2,650	2,683
総人口	11,518	10,608	9,641	8,698	7,550	6,904
0～14歳	1,752	1,478	1,147	937	698	508
割合(%)	15.2	13.9	11.9	10.8	9.2	7.4
15～64歳	6,813	5,980	5,319	4,571	3,654	3,217
割合(%)	59.2	56.4	55.2	52.6	48.4	46.6
65歳～	2,953	3,150	3,175	3,190	3,198	3,179
割合(%)	25.6	29.7	32.9	36.7	42.4	46.0
年齢不詳	-	-	-	-	-	-

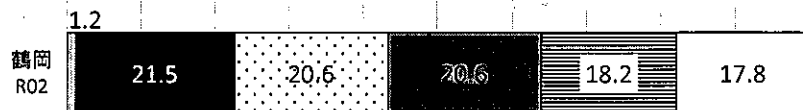
⑦鶴岡市

	平成7年 国勢調査	12年 国勢調査	17年 国勢調査	22年 国勢調査	27年 国勢調査	令和2年 住基台帳
世帯数	42,659	44,380	45,491	45,511	45,339	48,927
総人口	149,509	147,546	142,384	136,622	129,652	124,697
0～14歳	25,132	22,442	19,698	17,527	15,347	13,812
割合(%)	16.8	15.2	13.8	12.8	11.8	11.1
15～64歳	93,730	90,010	84,922	79,640	72,430	67,469
割合(%)	62.7	61.0	59.6	58.3	55.9	54.1
65歳～	30,647	35,025	37,630	39,222	41,303	43,416
割合(%)	20.5	23.7	26.4	28.7	31.9	34.8
年齢不詳	0	69	134	233	572	0

単位自治組織の世帯数規模

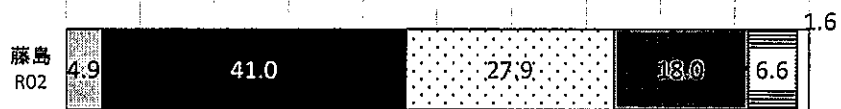
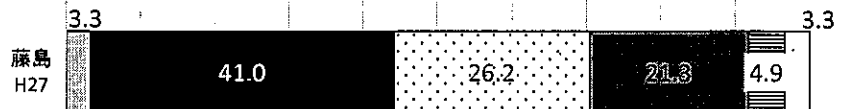
①鶴岡地域

世帯数規模	H27		R2	
	組織数	割合(%)	組織数	割合(%)
0~10	4	1.6	3	1.2
11~30	46	18.5	53	21.5
31~50	51	20.6	51	20.6
51~100	56	22.6	51	20.6
101~200	48	19.4	45	18.2
201~	43	17.3	44	17.8
合計	248	100.0	247	100.0



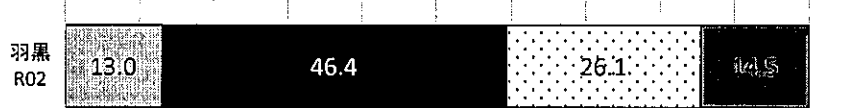
②藤島地域

世帯数規模	H27		R2	
	組織数	割合(%)	組織数	割合(%)
0~10	2	3.3	3	4.9
11~30	25	41.0	25	41.0
31~50	16	26.2	17	27.9
51~100	13	21.3	11	18.0
101~200	3	4.9	4	6.6
201~	2	3.3	1	1.6
合計	61	100.0	61	100.0



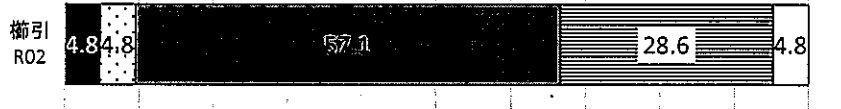
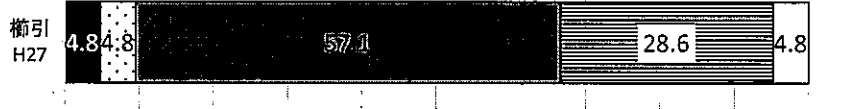
③羽黒地域

世帯数規模	H27		R2	
	組織数	割合(%)	組織数	割合(%)
0~10	9	12.9	9	13.0
11~30	32	45.7	32	46.4
31~50	19	27.1	18	26.1
51~100	9	12.9	10	14.5
101~200	1	1.4	0	0.0
201~	0	0.0	0	0.0
合計	70	100.0	69	100.0



④楡引地域

世帯数規模	H27		R2	
	組織数	割合(%)	組織数	割合(%)
0~10	0	0.0	0	0.0
11~30	1	4.8	1	4.8
31~50	1	4.8	1	4.8
51~100	12	57.1	12	57.1
101~200	6	28.6	6	28.6
201~	1	4.8	1	4.8
合計	21	100.0	21	100.0



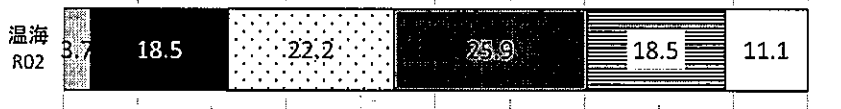
⑤朝日地域

世帯数規模	H27		R2	
	組織数	割合(%)	組織数	割合(%)
0~10	6	15.8	7	18.4
11~30	18	47.4	19	50.0
31~50	5	13.2	3	7.9
51~100	8	21.1	8	21.1
101~200	1	2.6	1	2.6
201~	0	0.0	0	0.0
合計	38	100.0	38	100.0



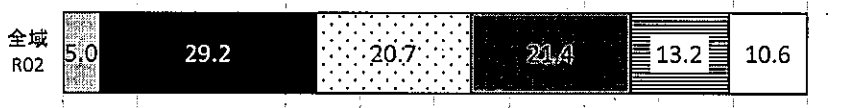
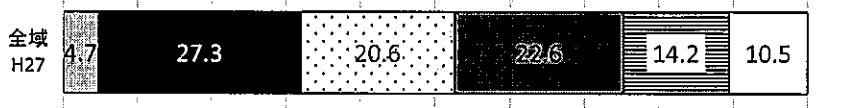
⑥温海地域

世帯数規模	H27		R2	
	組織数	割合(%)	組織数	割合(%)
0~10	1	3.7	1	3.7
11~30	5	18.5	5	18.5
31~50	4	14.8	6	22.2
51~100	7	25.9	7	25.9
101~200	7	25.9	5	18.5
201~	3	11.1	3	11.1
合計	27	100.0	27	100.0



⑦鶴岡市

世帯数規模	H27		R2	
	組織数	割合(%)	組織数	割合(%)
0~10	22	4.7	23	5.0
11~30	127	27.3	135	29.2
31~50	96	20.6	96	20.7
51~100	105	22.6	99	21.4
101~200	66	14.2	61	13.2
201~	49	10.5	49	10.6
合計	465	100.0	463	100.0



■ 0~10 ■ 11~30 ▨ 31~50
 ■ 51~100 ■ 101~200 □ 201~

町内会等世帯数規模の割合

単位自治組織の加入率

①鶴岡地域

	H27	H28	H29	H30	H31(R1)	R2
住基世帯数	36,141	36,245	36,318	36,445	36,656	36,932
町内会加入世帯数	30,254	30,290	30,278	30,299	30,250	30,305
加入率	83.7%	83.6%	83.4%	83.1%	82.5%	82.1%

②藤島地域

	H27	H28	H29	H30	H31(R1)	R2
住基世帯数	3,180	3,178	3,172	3,174	3,179	3,203
町内会加入世帯数	2,935	2,926	2,914	2,909	2,897	2,885
加入率	92.3%	92.1%	91.9%	91.7%	91.1%	90.1%

③羽黒地域

	H27	H28	H29	H30	H31(R1)	R2
住基世帯数	2,587	2,602	2,605	2,601	2,595	2,592
町内会加入世帯数	2,289	2,284	2,279	2,235	2,220	2,208
加入率	88.5%	87.8%	87.5%	85.9%	85.5%	85.2%

④榎引地域

	H27	H28	H29	H30	H31(R1)	R2
住基世帯数	2,166	2,206	2,223	2,225	2,231	2,226
町内会加入世帯数	2,005	2,003	1,998	1,998	2,014	2,015
加入率	92.6%	90.8%	89.9%	89.8%	90.3%	90.5%

⑤朝日地域

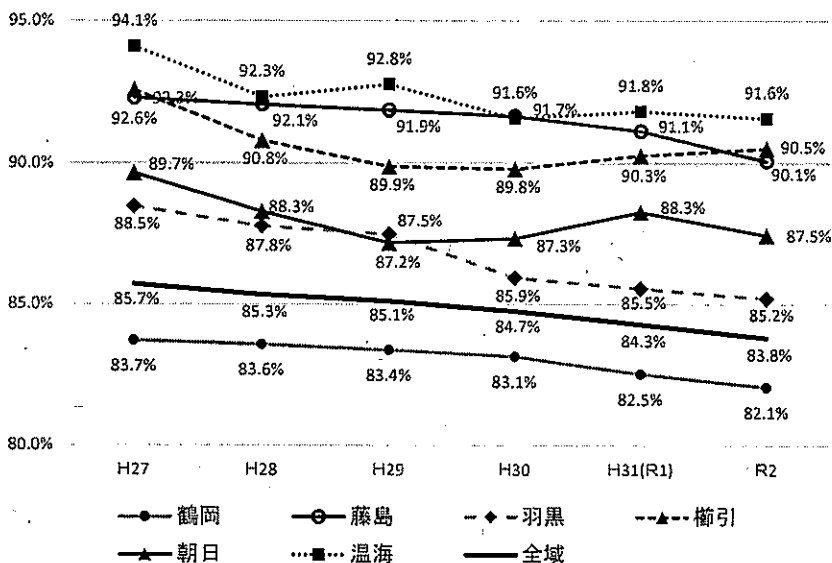
	H27	H28	H29	H30	H31(R1)	R2
住基世帯数	1,354	1,367	1,349	1,334	1,305	1,291
町内会加入世帯数	1,214	1,207	1,176	1,165	1,152	1,129
加入率	89.7%	88.3%	87.2%	87.3%	88.3%	87.5%

⑥温海地域

	H27	H28	H29	H30	H31(R1)	R2
住基世帯数	2,865	2,854	2,819	2,790	2,752	2,683
町内会加入世帯数	2,696	2,635	2,615	2,555	2,527	2,457
加入率	94.1%	92.3%	92.8%	91.6%	91.8%	91.6%

⑦鶴岡市全域

	H27	H28	H29	H30	H31(R1)	R2
住基世帯数	48,293	48,452	48,486	48,569	48,718	48,927
町内会加入世帯数	41,393	41,345	41,260	41,161	41,060	40,999
加入率	85.7%	85.3%	85.1%	84.7%	84.3%	83.8%



町内会等加入世帯割合の推移

項目 1. 広域コミュニティ組織への理解と協力の促進に努めましたか？

★取組の具体的事例

- 広域コミュニティ組織の意義と活動内容のPR
- 広域コミュニティ活動についての研修会の開催や情報交換
- コミュニティビジネスの取組に向けた検討
- 各種助成金等活用方法の検討
- 会費制の導入の検討



(N=4)

広域コミュニティ組織への理解と協力の促進について、全地区、「実施し、効果があった」と回答しています。

平成26年に自治振興会が創設され、平成27年に旧地区公民館単位で地域活動センター設置から5年経過しています。

総合的な地域活動の拠点施設として、事業の企画・運営等を各地域の関連団体と連携を図りながら、地域住民が気軽に参加できる仕組みの構築と、また広報等の発行等により、広域コミュニティ組織の意義が理解され、協力を得られたことが、アンケートの結果から伺えます。

《自由記述から一部抜粋》

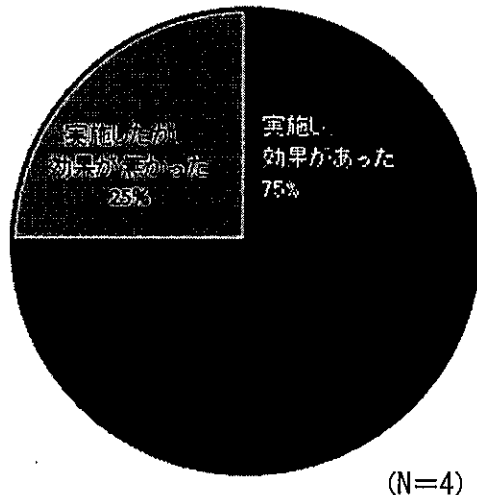
「実施し、効果があった」 ⇒自慢できる取組や効果の有無を判断した理由

- ・毎月1回「手向人」広報を発行して地域コミュニティへの参加、協力、理解を啓発している
- ・専門部組織体制の構築、区長会・生涯学習推進員、羽黒小教頭、PTA、老人クラブ、婦人会、福祉センター長等の協力を得て実施している。
- ・振興会事業を通して、理解と協力を推進している。
- ・自治振興会として地区の自治意識を高める事業展開を行ってきた。効果は全くなかったとも言い切れないがまだまだ努力が必要と思う。

項目2. 単位自治組織等との連携と役割分担及び人材の育成に取り組みましたか？

★取組の具体的事例

- 広域コミュニティ組織の単位自治組織への支援体制の構築
- 地区住民の声を反映した「地域ビジョン」の策定
- 地域課題解決のための情報交換や話し合いの実施
- 人材の発掘や育成のための講座や研修会の開催
- 広域コミュニティ組織連絡協議会の設立と組織間の情報共有・連携
- 地域コミュニティに関わる団体・組織との交流や話し合いの実施



単位自治組織との連携と役割分担及び人材の育成について、令和元年度に地域ビジョン策定した手向地区と現在策定中の泉地区と羽黒第四地区は、「実施し、効果があった」と回答しています。地域ビジョン策定にあたり、この3地区は、世代を超え、老若男女問わず、より多くの地域住民の声を聞き、地域の課題を共有して一体的なまちづくりに取り組んでいることが伺えます。

「実施し、効果がなかった」と回答している広瀬地区は、区長をはじめ他団体の役員が単年交代や改選等により人材育成に至らない要因としています。

＜自由記述から一部抜粋＞

「実施し、効果があった」 ⇒自慢できる取組や効果の有無を判断した理由

- ・地域ビジョン策定のため2年間、計11回のワークショップを開催して地域の老若男女に参加してもらい今年4月まちづくりプランを策定した。
- ・地域ビジョン策定準備委員会発足、資料を提供いただき2回の勉強会実施。令和2年度に世代を交えての(20～70代)策定委員を選出し策定に着手予定。
- ・地区の規模の小ささを活かして若い世代の方も事業に参加してもらえるよう、役の割り振りし協力を仰いだ。

「実施したが、効果がなかった」 ⇒自慢できる取組や効果の有無を判断した理由

- ・区長会他団体の事務局として連携も、改選等があり人材育成には至らない。

項目3. 若者に魅力ある地域、子育てしやすい地域づくりに取り組みましたか？

★取組の具体的事例

- 雇用の場の創出・農業環境の改善や就農者への支援
- 小学校と連携したコミュニティ活動の推進
- 子ども達の郷土愛を育む教育活動の実践
- 育児サークルや見守り隊等地域で子育てをする環境づくり
- コミュニティビジネスの取組に向けた検討
- 地域外から人材を呼び込むための検討



(N=4)

若者に魅力ある地域、子育てしやすい地域づくりについては、全地区「実施し、効果があつた」と回答しています。

手向地区では環境を活かしたほたる祭り、泉地区では料理教室や収穫体験を通し食育を学ぶ事業の企画、広瀬地区では広瀬小学校と協働の企画を実施しています。

どの地区も羽黒第四地区同様、親子事業にしている狙いとして、地域の特徴や環境を活かした教育活動の実践に加え、親子のふれあいを通し、楽しい体験を共有することで、より一層親子関係を深めるとともに、事業参加率の向上も図っています。

《自由記述から一部抜粋》

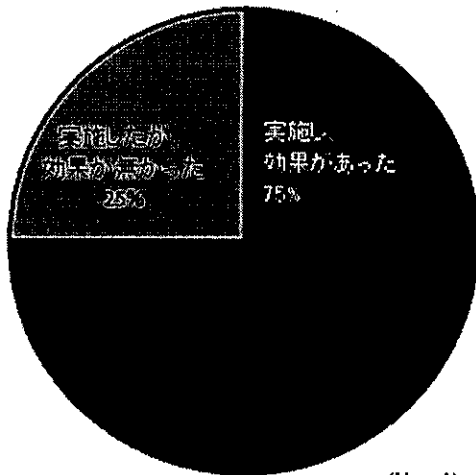
「実施し、効果があつた」 ⇒ 自慢できる取組や効果の有無を判断した理由

- ・昨年3月手向春祭りや、毎年7月にほたる祭りなどを開催して多くの子供と親に参加してもらっている。
- ・グリーンツーリズム「親子体験学習」の実施、地元食材を使つての料理教室・収穫体験を実施。食改・管理栄養士の協力を得、子供たちに食の大切さを教えている。
- ・広瀬小との協働事業や親子教室などの取組みを実施しているが、若者向け事業は企画していない。
- ・子供達が参加する事業には、保護者が参加できるようにいつも紐づけを意識している。参加率に効果は現れていると思う。

項目4. 防災拠点としての自主防災活動の推進を図りましたか？

★取組の具体的事例

- 情報伝達、情報収集方法の検討
- 避難訓練や防災研修等の実施
- 単位自治組織の自主防災会への働きかけや支援



防災拠点施設としての自主防災活動の推進について、全地区、毎年防災拠点施設として施設内の防災資機材・環境等の点検のほか、単位自治組織の自主防災会へ働きかけを行い各自治振興会を中心とした防災訓練を実施しています。

手向・泉・広瀬地区は、「実施し、効果があった」と回答しています。

一方「実施し、効果がなかった」と回答している羽黒第四地区は、令和元年度羽黒地域の防災訓練を実施した反省として、地区の沿った災害想定と訓練内容とすべきだったとしています。

《自由記述から一部抜粋》

「実施し、効果があった」 ⇒自慢できる取組や効果の有無を判断した理由

- ・毎年防災訓練を行い防災資機材の補充もしている。
- ・地区を5ブロックに分けて、毎年ブロック毎ローテーションし防災訓練を実施している。消防署・婦人会より協力をいただき、応急手当訓練・炊き出し訓練などを行っている。
- ・地区防災訓練、施設内消防訓練、環境点検を実施している。

「実施したが、効果がなかった」 ⇒自慢できる取組や効果の有無を判断した理由

- ・羽黒地域防災訓練を行ったが、もう少しこの地域に沿った内容で進めることができればと思った。地域の方の防災意識の向上に一役かえたと思う。

項目5. 福祉・防犯体制の推進を図りましたか？

★取組の具体的事例

- 高齢者や要支援者の見守り支援体制の構築
- 防犯体制の見直しと強化



福祉・防犯体制の推進について、全地区「実施し、効果があった」と回答しています。

手向・泉地区においては、年間通して複数回「百歳体操」を実施し、高齢者の健康促進と交流を図っています。

また、広瀬地区においては、福祉関連団体との連携を図りながら共催福祉事業を行っています。

羽黒第四地区は、継続事業を展開することにより、高齢者の見守り生きがいがづくりの場を提供できていると回答しています。どの地区においても共通して高齢者や要支援者の見守り支援体制は、事業の継続を最も重要視されていることが伺えます。

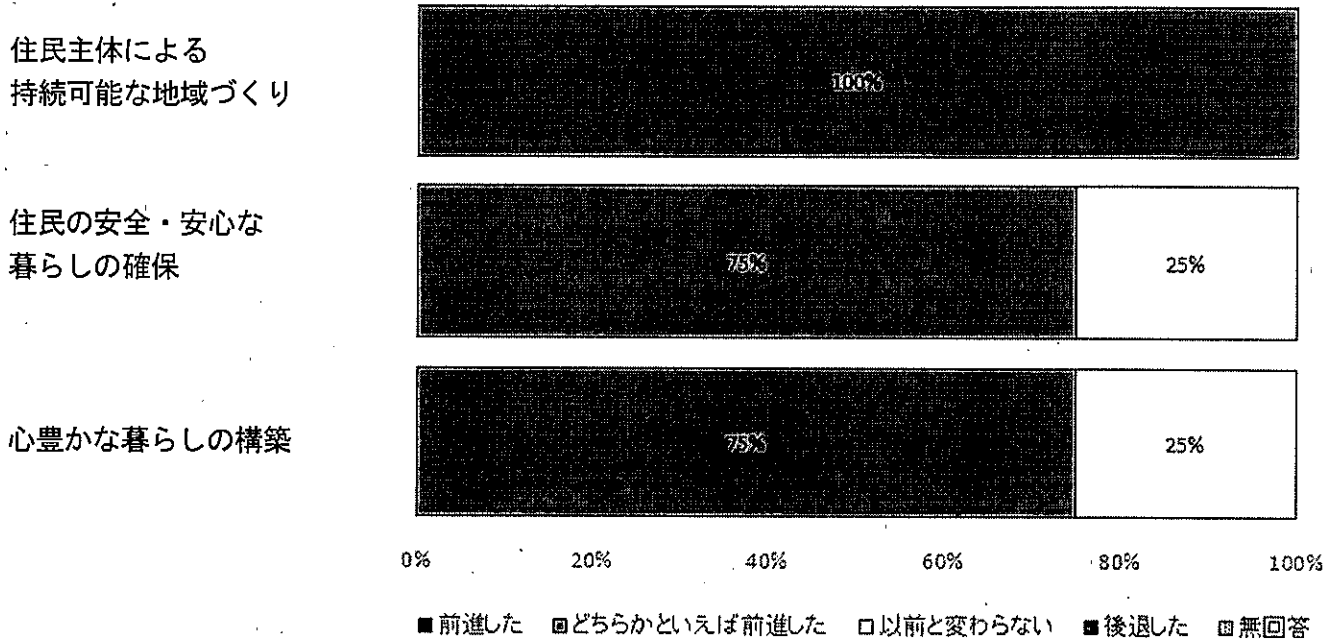
《自由記述から一部抜粋》

「実施し、効果があった」 ⇒自慢できる取組や効果の有無を判断した理由

- ・百歳体操を5月から2月まで開催し、延べ1,400人が参加し健康促進・交流を図った。
- ・高齢者げんき塾の講演「薬と上手に付き合おう」薬剤師より誤飲・副作用についての話、勉強になった。また百歳体操の継続、防犯研修会の実施（講和羽黒駐在所）
- ・福祉関連団体と共催福祉事業、防災体制の強化、点検
- ・継続事業を展開することにより、高齢者の見守り生きがいがづくりの場を提供できている

全般1. 地域コミュニティの目指す5年後の方向性について、計画策定時（平成27年度）と比べてどのように変化しているか教えてください

(N=4)

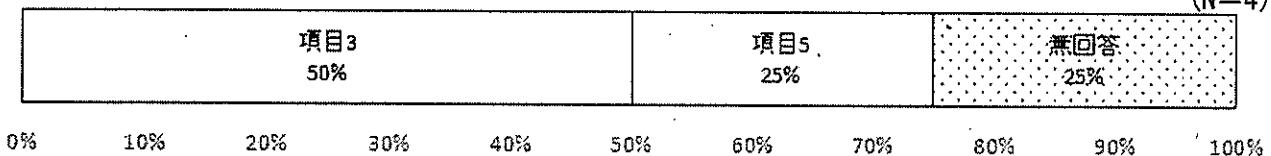


最初に住民主体による持続可能な地域づくりについては、全地区「どちらかといえば前進した」と回答しています。これは項目1『広域コミュニティ組織への理解と協力』、項目3『若者に魅力ある地域、子育てしやすい地域づくり』、項目5『福祉・防犯体制の推進』に取り組んだ効果の現れと言えます。

次に、住民の安全・安心な暮らしの確保と心豊かな暮らしの構築について唯一「以前と変わらない」と回答した手向地区は、地域ビジョン策定に向けたワークショップで課題が整理され、今後本ビジョン及び行動計画に基づきながらビジョン実現に向け積極的に取り組むことから今後変化を感じるものと考えます。

全般2. 項目1～5のうち、貴町内会が特に力を入れて取り組んだ項目を教えてください

(N=4)

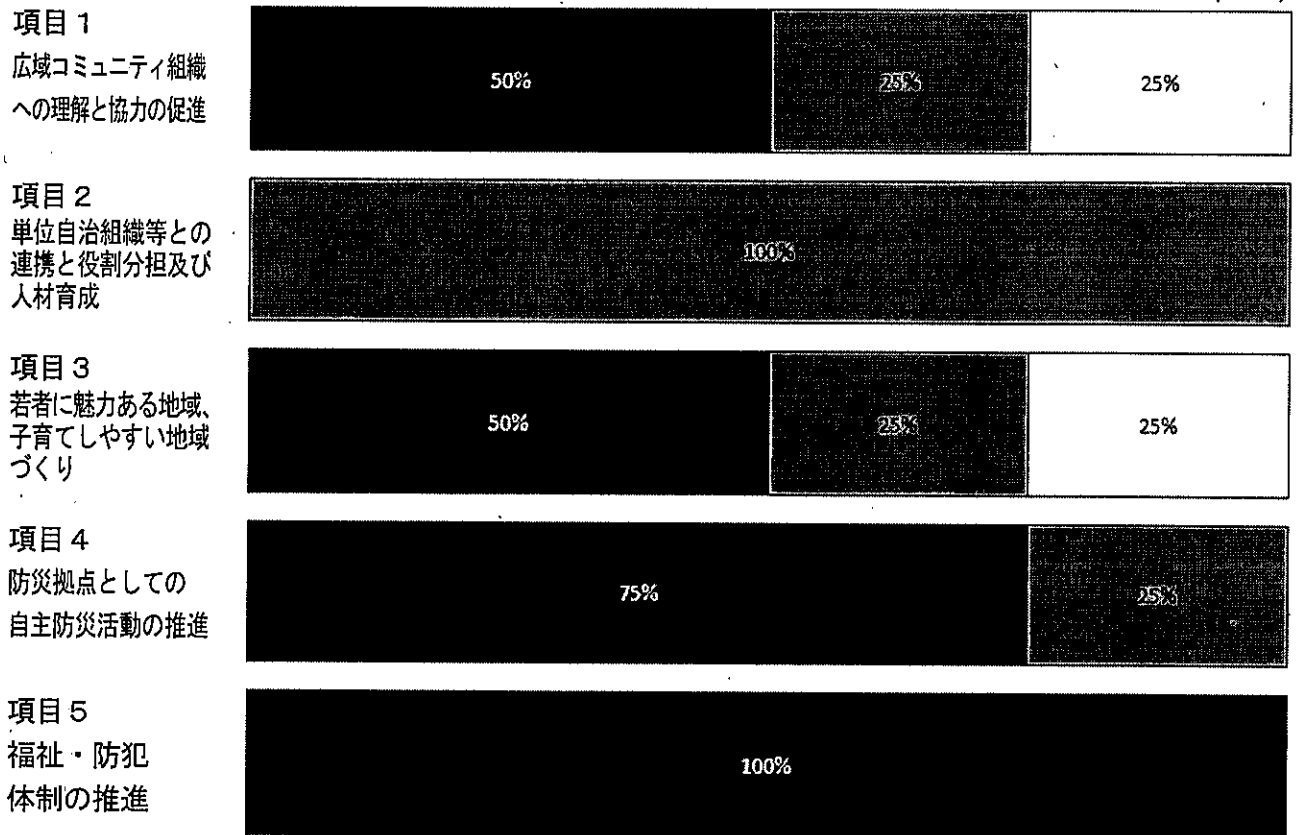


手向・泉地区は、項目3『若者に魅力ある地域、子育てしやすい地域づくり』を選択しています。特に手向地区は、定住人口の急激な減少、少子化対策が懸案となっていることから、地区を良くするために自ら取り組まなければならないという意識の表れとも考えられます。

羽黒第四地区は、項目5『福祉・防犯体制の推進』を選択しています。山岳地で集落が点在しているため、日中若い人の多くは勤務先が市街地のため高齢者のみの世帯が多いことから、高齢者の見守りや生きがいがづくりの場の提供、防犯の強化が特に求められていると推察します。

全般3. 現在、項目1～5の取組をどの程度重視しているか教えてください

(N=4)



0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%
 ■重視している ■やや重視している □どちらともいえない ■重視していない □無回答

全ての地域が重視している項目は、項目5『福祉・防犯体制の推進』です。これからの高齢化社会を見据えて、単位自治組織で担えない部分を広域コミュニティ組織が補完する必要性を感じていることが伺えます。

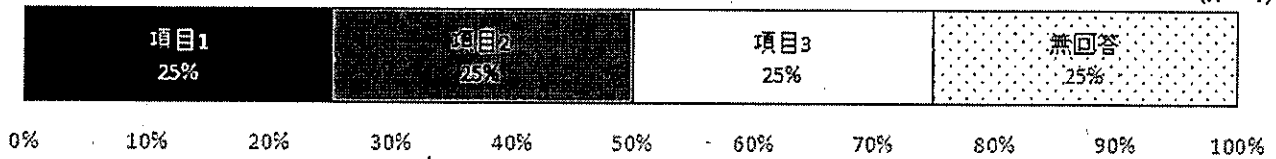
次に重視度が高いのは、重視としている(75%)泉・広瀬・羽黒第四地区と、やや重視している(25%)手向地区が回答した、項目4『防災拠点としての自主防災活動の推進』です。

昨年度の山形県沖地震の経験や大雨による災害の多発が要因し、災害に対する備えが大事とする考えから地域の防災力の向上の必要性を感じている現れとも考えられます。

全ての地域がやや重視していると回答した項目2『単位自治組織との連携と役割分担及び人材育成』については、喫緊の課題とまではいかなくとも今後も継続すべき課題と考えていると捉えます。

全般4. 項目1～5のうち、今後力を入れていきたい項目を教えてください

(N=4)



項目1『広域コミュニティ組織への理解と協力の促進』と回答した泉地区は、地域ビジョン策定への意気込みが伝わります。

項目2『単位自治組織等との連携と役割分担及び人材育成』と回答した羽黒第四地区は、リニューアルされた活動センターを最大限に活用し、事業企画や体制整備に意欲的に取り組むことが期待されます。

項目3『若者に魅力ある地域、子育てしやすい地域づくり』と回答した手向地区は、若者の定住や人口流出の歯止め、少子化対策を図るため、蝦夷館公園を利用したイベントを企画したいと意欲的です。

全般5. その他、地域コミュニティに関してご意見がございましたらご記入ください

《自由記述から一部抜粋》

特になし。

問1. 貴町内会等のコミュニティ活動の良いところ（特徴、魅力など）はどのようなところだと思いますか。

《自由記述から一部抜粋》

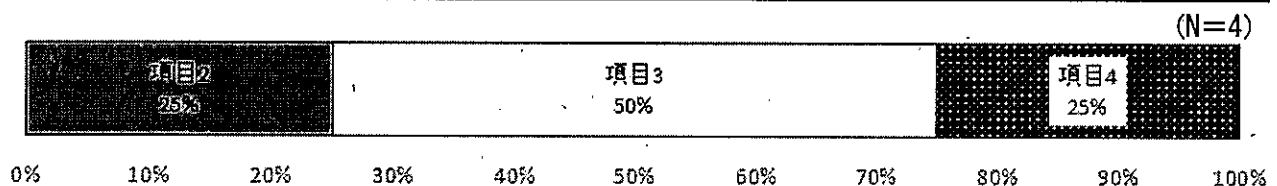
- ・ホタル祭りや羽黒山石段の朝山登山など「地区の特色を生かした活動」や、女性セミナーやにこにこ料理教室・男の料理教室など「性別・年代に合わせた活動」を実施し、幅広く参加をよびかけているところ。
- ・顔が見える関係性の中で、色々な事業を行う際になごやかに開催できるところ。
- ・地域の現状を踏まえ、臨機応変に対応できているところ。
- ・6集落と少ないため何をするにも決断、行動が早く、住民それぞれの顔が見えるため事業の参加率は高い。また、農業以外にも多彩な職種の人々がおき事業に幅が出る場所。

問2. 貴町内会等のコミュニティ活動の足りないところ（課題、問題点など）はどのようなところだと思いますか。

《自由記述から一部抜粋》

- ・少子高齢化がさらに進み小学校も廃校となったことにより、地区運動会が泉地区と合同になり、参加できる人数に制限が設けられた場所。
- ・世代毎の事業はそれぞれ企画・開催されているが、世代間交流や多世代が一堂に集まる事業が少ない場所。
- ・次代の地域ニーズが把握しづらくなっている場所。
- ・昭和40年4月学区再編により、泉地区の一部と広瀬地区の一部を学区とする第四地区発足、50年以上経過したにも関わらず各団体は泉・広瀬のままで防災体制を築く際にネックになっている。強固な組織を築くことが難しい場所。

問3. 項目1～5のうち、今後力を入れていきたい項目を教えてください



項目2『単位自治組織との連携と役割分担及び人材の育成』と選択した泉地区は、若い世代の方々が地域の文化や歴史に触れる機会を作り郷土愛を育て将来的に人材育成につなげたいと回答し、項目3『若者に魅力ある地域、子育てしやすい地域づくり』を選択した広瀬地区も、地域の自然や地域の産業・仕事・文化を子供の時期から興味を持ってもらえる様な学習の場と回答しています。目的は違っても取組内容は類似しています。また、同回答の羽黒第四地区は、地域外へ発信し、魅力ある地域づくりをめざしています。項目4『防災拠点としての自主防災活動の推進』を選択した手向地区は、廃校の跡地利用を災害時のみでなく、住民の交流の場としても広く活用できるよう検討したいと考えています。

《「具体的に考えている事業や取り組んでみたい事業」の自由記述から一部抜粋》

- ・若い世代の方々（子供達を含み）地域の文化や歴史に触れる機会を作り、故郷への愛情を育てる事業や魅力を発信できるしくみ作り
- ・地域の自然や地域の産業・仕事・文化を子供の時期から興味を持ってもらえる様な学習の場
- ・リニューアルした活動センターを最大限に活用し、住民だけでなく地域外の人にも多く利用されることにより地域の存在感を高める活動を行っていききたい。
- ・小学校の跡地利用について市の協力が必要。大規模災害時の避難場所としての利用や住民の交流の場としての利用。子供が安心して遊べるようにグラウンドの整備など

問4. 貴町内会等の住民が安心して、楽しく暮らすために、どのような取組（事業など）が必要だと思いますか。

《自由記述から一部抜粋》

- ・消防団や子供会と協力して自主防災の強化。
- ・地域の中に、いつでも気軽に誰でも立ち寄れる空間や場所があり交流が持てる場所づくり（自由に使えるフリースペースづくり）。
- ・災害時の報道を見る限り地域住民のつながりがとても重要と感じる。現在コロナ禍の状況が続けば地域コミュニティの崩壊が始まると危惧されている。住民をいかに関わらせてゆくかが課題。
- ・災害が少なくとても良い地域ですが、災害が起きた時には孤立することを考え、実際の避難を想定して準備を進める。

問5. その他、地域コミュニティに関してご意見がございましたらご記入ください。

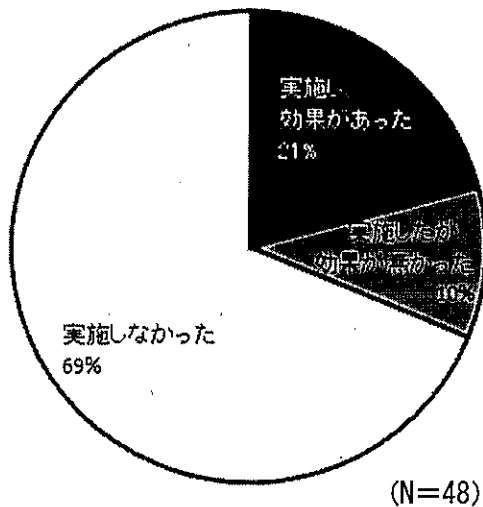
《自由記述から一部抜粋》

- ・コロナ禍後の地域コミュニティ維持・活性化のために、市からの費用的支援を増やして欲しい。
- ・徐々に地域が縮小化していくことは止められない部分もあるが、その中でいかに地域の中で交流を増やし安全に暮らせるような仕組みや仕掛けを作ることが大事だと思う。
- ・自治振興会、区長会、その他団体等、人口減少しているのに団体数は減る傾向になく、それぞれの団体の役職の掛け持ちや慢性的な役職の成り手不足に悩まされる。

項目 1. 集落規模の縮小と活動減少への対応を行いましたか？

★取組の具体的事例

- 広域コミュニティ組織（自治振興会）と連携した事業体制の構築
- 住民自治組織（自治振興会及び集落）の運営や事業内容の見直し
- 近隣の単位自治組織（集落）との連携や統合の検討



集落規模の縮小と活動減少への対応について、「実施しなかった」が7割弱（69%）。現時点では必要ない、集落総会でその都度協議するとの意見が多かった。

一方「実施し、効果があった」（21%）、「実施したが、効果がなかった」（10%）と約3割は、対応を実施している。

効果があった意見の中に、広域コミュニティ組織が企画する事業に参加することにより、集落自体活動は減ったが、広い活動が増え充実感があると思うことから、単位自治組織で担えない部分を広域コミュニティが補完する役割が果たされていることを示しています。

＜自由記述から一部抜粋＞

「実施し、効果があった」 ⇒自慢できる取組や効果の有無を判断した理由

- ・高齢化の進む中、若い世代の自治組織への参加を進めてきた。集落の活動に若い人の参加が多くなっている。
- ・自治振興会へ参加することにより集落自体の活動は減ったが、広い活動が増え充実感があると思う。
- ・新しく若い世代の移住、集落行事の参加がある。
- ・農村公園での集落体育祭、子供会を中心とした美化運動等多くの住民の参加がある。

「実施したが、効果がなかった」 ⇒自慢できる取組や効果の有無を判断した理由

- ・全世代が対象の収穫感謝祭を中止したが効果は感じられなかった。
- ・少子高齢化により共同作業が難しくなる。
- ・高齢者世帯増加と若者の人口流出が増加している。

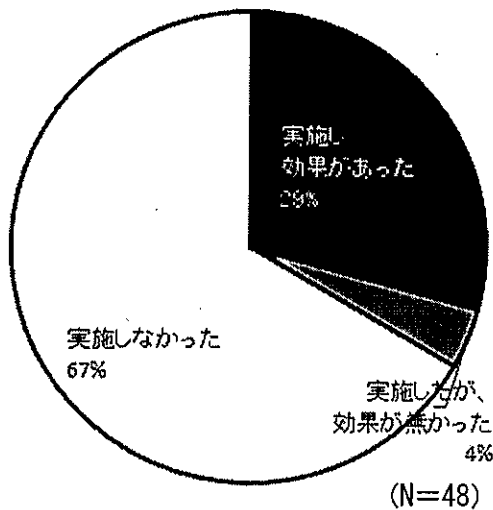
「実施しなかった」 ⇒その理由や必要であると考えている取組

- ・戸数の減少により隣組の「区分け見直し」の案が出たがさほど支障もなかったので実施に至っていない。
- ・現状維持でいいのでは。
- ・従来の諸行事实施で十分である。
- ・必要がない。
- ・活動は維持されているから。
- ・集落総会にてその度協議。
- ・若い人達と年輩者との話し合いの場を設ける。

項目2. 役員等の負担軽減と担い手の育成に取り組みましたか？

★取組の具体的事例

- 役員等の負担軽減につながる効果的な組織体制の見直し
- 役員を育成する仕組みづくり



役員等の負担軽減と担い手の育成について、「実施しなかった」が7割弱（67%）。役員選出を輪番制にしており特に支障がないとの意見が多かった。

一方「実施し、効果があった」（29%）、「実施したが、効果がなかった」（4%）と、約3割は実施しています。

効果があった意見の中に、従来の輪番制の体制に加え、役員を正副にして長の負担軽減を図り、確実に効果を感じているという回答も複数ありました。

《自由記述から一部抜粋》

「実施し、効果があった」 ⇒ 自慢できる取組や効果の有無を判断した理由

- ・役員を年齢の年順に送り、1年交替で進めてきたが、役員の数数年にすることで仕事への負担感が少なくなっている。
- ・区長はあて職も含めると多くの重責を抱えるので、その下に「区長代理」制度を設けて区長の負担軽減を図った。確実に効果があった。
- ・会計を若者に引継ぎした。役職の兼務がなくなって負担軽減となった。
- ・役員手当の増額、役員を年齢を下げた。
- ・役員を正副制度により補い負担軽減につながっている。

「実施したが、効果がなかった」 ⇒ 自慢できる取組や効果の有無を判断した理由

- ・集落の長・副以外役員は組単位を2年で変わる（集落の長副以外）。

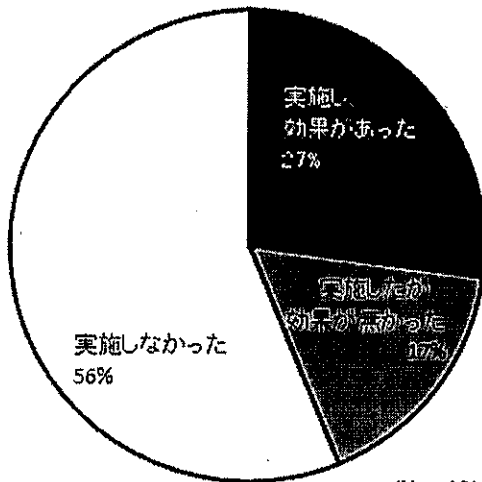
「実施しなかった」 ⇒ その理由や必要であると考えている取組

- ・役割分担がはっきりあって別に困っていない。
- ・急遽二度目の区長就任に当たり今後の役員交代がスムーズにいく様に役員会総会にて合意確認できたので安心である。
- ・集落役員は、ほぼ輪番制を継続しており、スムーズに選出している。隣組々長が役員会に入っていて、自然に意識されている。
- ・社会的な現役世代が多く集落、自治会活動に対して意識が低い、役員を世代交代、役員を役割・活性化を早急に取り組みたい。
- ・前任者からの引継ぎ不備。

項目3 子どもや若者の事業参加や活動の担い手を確保する環境の整備を図りましたか？

★取組の具体的事例

- 若者のリーダー育成講座や研修会の開催
- 若者が主体的に行う事業への支援
- 子どもや若者の地域における活動の拡大による意識付け
- 活動内容や開催日の検討等伝統文化や行事が継承できるような環境づくり
- 小中学校や高等教育機関、企業等への協力要請



(N=48)

子どもや若者の事業参加や活動の担い手を確保する環境整備について、「実施しなかった」が6割弱（56%）。

一方、「実施し、効果があった」（27%）と「実施したが、効果がなかった」（17%）と、4割は子どもや若者が参加しやすい事業企画等の環境整備を図っています。

効果があつた意見の中に、ホテル祭りを住民総参加型で開催し、地域の賑わいの創出と次代を担う子供たちの健全育成を図ったとの回答もありました。

《自由記述から一部抜粋》

「実施し、効果があつた」 ⇒自慢できる取組や効果の有無を判断した理由

- ・住民総参加型の「ホテル祭り」を開催し、老若男女が一堂に会して若者が一役を担う等、地域の賑わいの創出と次代を担う子供たちの健全育成を図った。
- ・地域の環境整備あるいは危険個所の点検。
- ・子供会中心の春秋クリーン作戦・資源回収・青年（草刈り会）、用水路内・集落内の草刈りで地域に貢献。
- ・夏祭りを役員主体から若年層参加募り、準備するようになった。
- ・継続事業だが、若者（消防団主体）企画事業の集落祭り実施と集落での支援。とりたてて自慢するほどではないが貴重な取り組み。

「実施したが、効果が無かつた」 ⇒自慢できる取組や効果の有無を判断した理由

- ・地域の自然との関わり合いから、小学生・保護者に参加をお願いして地域内に生息する動植物の観察を実施した。
- ・親世代が忙しく地域活動の参加が減少している。
- ・以前環境整備事業と連動し、子供会の花植えや、ざっこしめ等企画したが現在はすべて行っていない。保護者の世代も代わり意識にも変化がある。

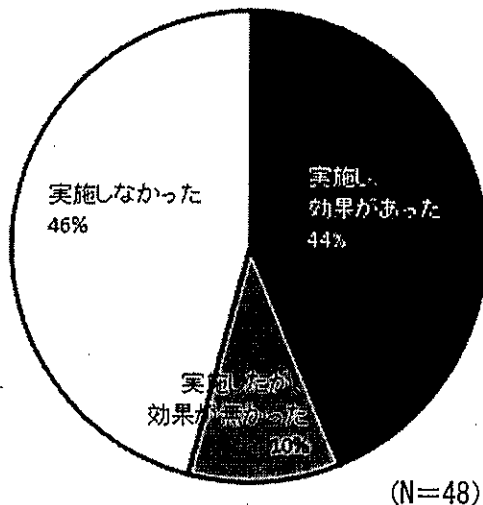
「実施しなかった」 ⇒その理由や必要であると考えている取組

- ・少子化・地域行事への参加が減。
- ・現状でよい。
- ・事業や活動機会が少なく、また子供・学生等年齢的未成熟。
- ・農家で家に居る人が減少していく中でサラリーマンは中々仕事優先になりがちで厳しい。
- ・若者・子どもの人数が少ないため。

項目4. 福祉・防犯・防災等安全で安心な地域づくりの推進に努めましたか？

★取組の具体的事例

- 自主防災組織の機能点検と研修の開催
- 広域コミュニティ組織と連携した事業体制の構築
- 要支援者見守り体制の検討
- 他団体と連携した高齢者等交流・支援活動の実施



福祉・防犯・防災等安全で安心な地域づくりの推進について、「実施しなかった」が5割弱（46%）。現状集落内での協力・確保で良い、隣近所付き合いがある等、「顔の見える関係」の構築が図られており支障ないとの理由が多かった。

一方、「実施し、効果があった」（44%）、「実施したが、効果がなかった」（10%）と5割は、取り組みを実施しています。

主に、集落内での防災・防犯訓練を実施し、組織の防災力と住民自治組織の向上の効果を感じているとの意見が多くありました。

《自由記述から一部抜粋》

「実施し、効果があった」 ⇒自慢できる取組や効果の有無を判断した理由

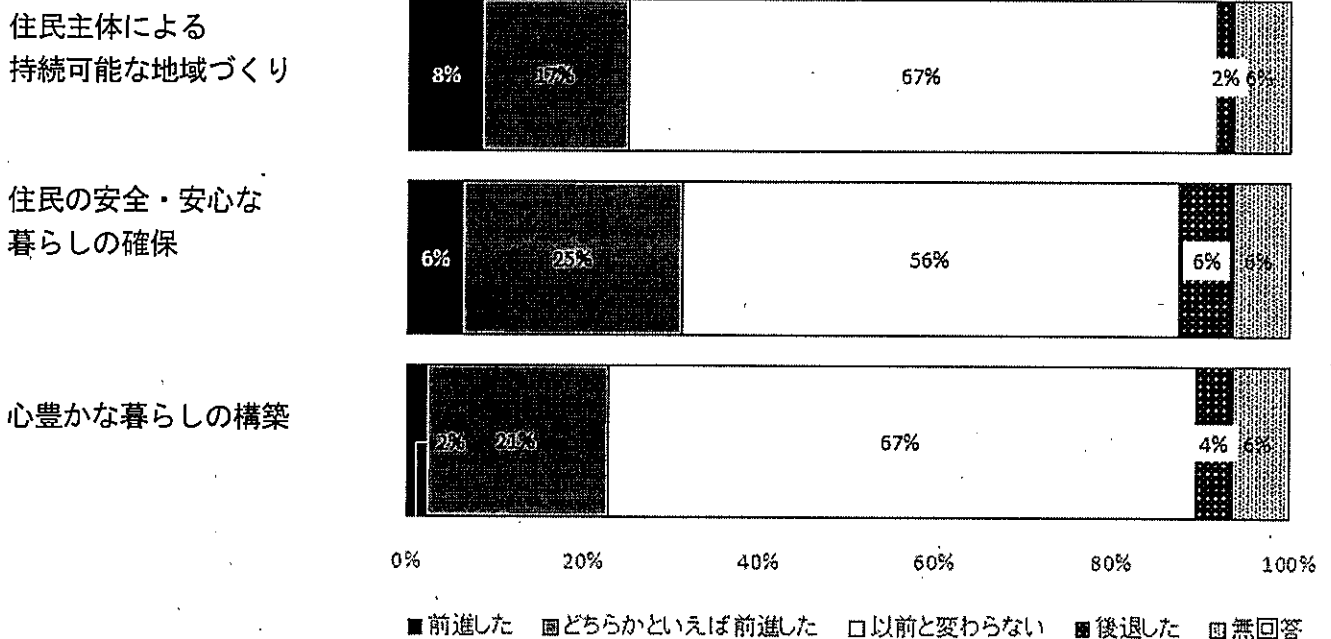
- ・毎年集落内の子供達にも参加を呼びかけて自主防災訓練を実施し、「防災」の重要性を再認識する等の効果があったと思う。
- ・自治振興会との防災訓練を通し、それぞれの具体的な役割や要支援者への確認ができた。
- ・集落内の施設（特老）に親子でボランティア活動に参加して親の姿を見つつ、社会とのコミュニケーションを学習する。
- ・避難訓練等実施し、住民自治組織の向上につながった。
- ・高齢者を対象に定期的にサロンを開催しているが、居場所づくりには効果があると思う。

「実施しなかった」 ⇒その理由や必要であると考えている取組

- ・地域防犯協会との連携。
- ・現状集落内での協力・確保で良い。
- ・隣近所の付き合いがあるので。
- ・今後取組を考えている。

全般1. 地域コミュニティの目指す5年後の方向性について、計画策定時（平成27年度）と比べてどのように変化しているか教えてください

(N=48)

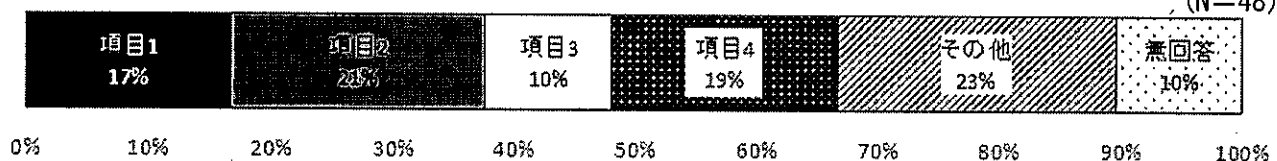


住民主体による持続可能な地域づくりと、心豊かな暮らしの構築は、割合が類似しています。「前進した」「どちらかといえば前進した」併せて2割程度、「以前と変わらない」は7割程度変化を感じています。

また、住民の安全・安心な暮らしの確保は「前進した」「どちらかといえば前進した」を併せた割合(31%)が他の項目より多くなっていますが、後退したと感じている割合(6%)も他の項目より多くなっています。

全般2. 項目1～4のうち、貴町内会が特に力を入れて取り組んだ項目を教えてください

(N=48)

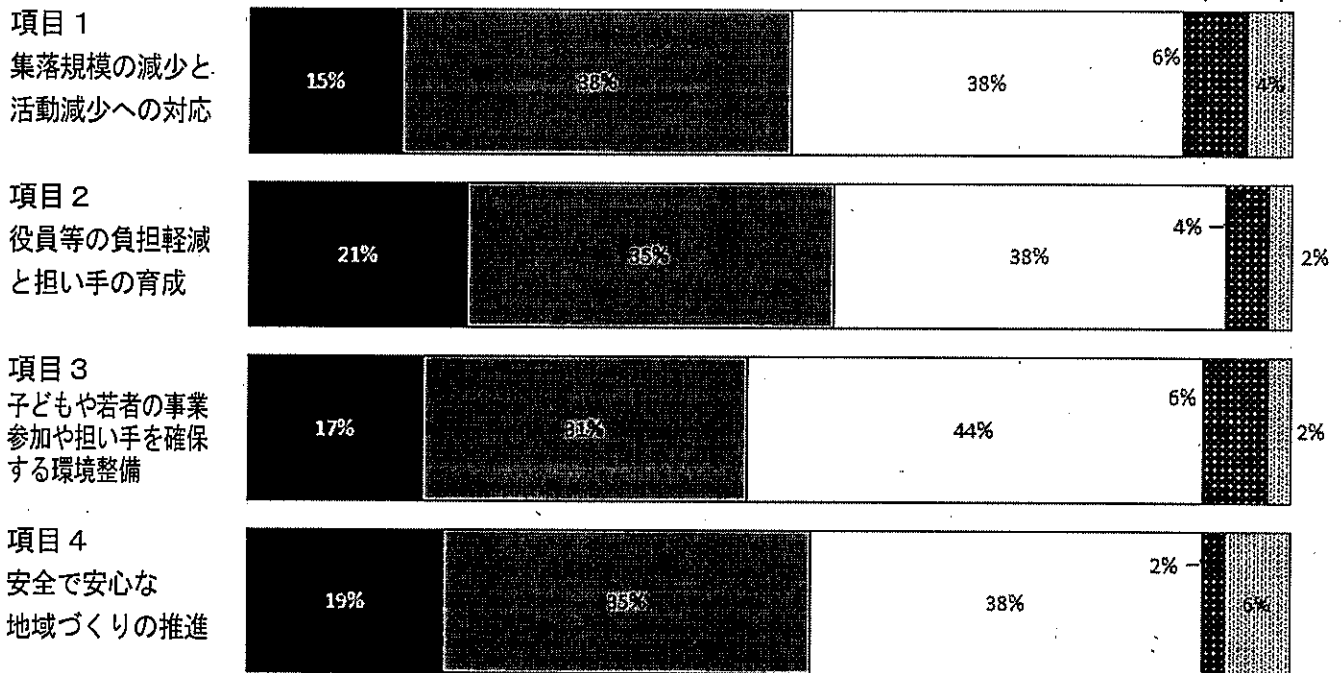


その他(23%)は、特に取り組んでないとの意見が大半でした。

次に多い項目2『役員等の負担軽減と担い手の育成』(21%)は、単位自治組織の会員が減少しているにも関わらず、役職は減らず、複数の役職の兼務しなければならない課題の対応に取り組んでいるものと推察します。それに続いて、項目4『福祉・防犯・防災等安全で安心な地域づくりの推進』は(19%)、項目1『集落規模の縮小と活動減少への対応』(17%)、項目3『子どもや若者の事業参加や活動の担い手を確保する環境の整備』(10%)の順となります。

全般3. 現在、項目1～4の取組をどの程度重視しているか教えてください

(N=48)



0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

■重視している □やや重視している □どちらともいえない ■重視していない □無回答

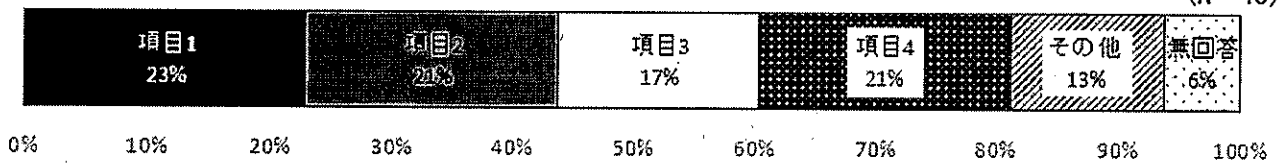
重視している

(56%) で6割弱を占めています。これは、全般2の結果と同一であり、重視しているため特に力を入れて取り組んでいることが伺えます。今後、単位自治組織内の検討を踏まえ、役員負担軽減に向けて、市や関係団体と連携のもと組織体制の見直しを図るとともに、新たな人材の育成・確保に向けた取り組みが継続して必要なことが伺えます。

次に項目4『福祉・防犯・防災等安全で安心な地域づくりの推進』(54%)、ほぼ同列で項目1『集落規模の減少と活動減少への対応』(53%)と続きます。

全般4. 項目1～4のうち、今後力を入れていきたい項目を教えてください

(N=48)



今後力を入れていきたい項目として、項目1『集落規模の縮小と活動減少への対応』(23%)、次に項目2『役員等の負担軽減と担い手の育成』と、項目4『福祉・防犯・防災等安全で安心な地域づくりの推進』(21%)、項目3『子どもや若者の事業参加や活動の担い手を確保する環境整備』(17%)の順となっています。

具体的に考えている事業として、多世代が交流でき自由に使える空間づくりや、各組織との全体交流、人口減少をストップするため地域のPH活動に努め人が集まるようなイベントの企画等意欲的な意見がありました。

全般5. その他、地域コミュニティに関してご意見がございましたらご記入ください

《自由記述から一部抜粋》

- ・羽黒地区には、単位自治組織69集落と旧町村等と比較しても非常に多く本来のコミュニティを運営するのに課題も多々ある中で、健全な組織体制を構築する意味でも集落の統廃合が必要であると思います。
- ・少子高齢化に対して集落として対応する手段はほとんどない。
- ・高齢化進み、福祉施設の充実・拡大をもっと図るべき、幼稚園・保育所の完全無償化を考えるべき。
- ・集落全体見渡しても人それぞれでしようがないのかもしれないが挨拶ができない人が多くなってきている。親の責任はやはり大きい。
- ・地域コミュニティの(イベント等)機会が少なく、地域コミュニティの実施に関して行動の活力と熱意が感じられない。(1つの行事として過ごしている、日程をこなしているのみ)

問1. 貴町内会等のコミュニティ活動の良いところ（特徴、魅力など）はどのようなところだと思いますか。

《自由記述から一部抜粋》

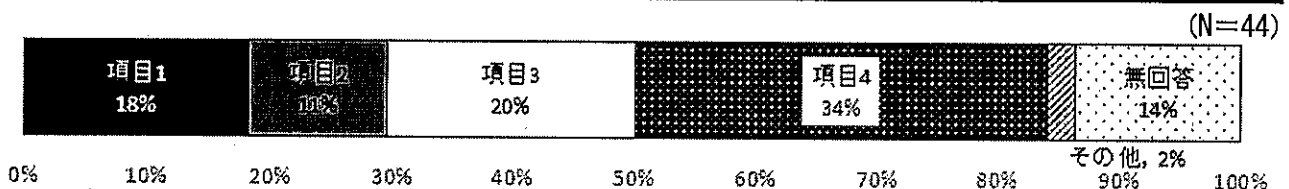
- ・戸数が少ないのでまとまりがある。
- ・自治振興会及び近隣集落との連携した事業体制。
- ・子どもの頃から継続的な行事・活動から地区歴史の積み重ねに関わりを感じる事が出来る。
- ・集落の活動への参加にとっても協力的なところ。
- ・昔からやっている活動を継続して行っているところ。
- ・ほたる祭り等の行事、祭事を多くの人が参加して行っている。
- ・集落が小さいことから、出席率がよく団結力があると思う。
- ・年一回の夏祭り等で集落内のコミュニケーションをとっている。集落内の草刈りを年3回行ないますが、2回は機械なのですが、1回は全員参加し、手で刈るようしています。

問2. 貴町内会等のコミュニティ活動の足りないところ（課題、問題点など）はどのようなところだと思いますか。

《自由記述から一部抜粋》

- ・人口減少の問題で進歩無し。
- ・1～3人世帯が1/3 がいる、小学生が4名しかいない、部落内でも顔を見ない人がいる。
- ・比較的に軒数が多い地区ではあるが参画する人が限られる。また役員についても重複する事が多い。会社勤めの都合、各家庭の年代構成等、個人・家庭内の問題が地区でカバーできる範囲を超えていると思われ、方法・仕組みを変えないと継続が難しい。
- ・隣組での活動が希薄になってきている。
- ・集落の人が少ないので役員がすぐにまたしなければならぬ。運動会の時子供が少ないため、子供がいなくても全員参加しないと競技に欠員が出る。又競技に1人で3つ4つ参加しなければならない
- ・人材不足、若者がいない。
- ・小さい集落のため、役職のかけもち等がある。また若い人も少ないため今後10年、20年と考えると不安。

問3. 項目1～4のうち、今後力を入れていきたい項目を教えてください



最も力を入れていきたい項目は、項目4『福祉・防災等安全で安心な地域づくりの推進』(34%)
次に項目3『子どもや若者の事業参加や活動の担い手を確保する環境整備』(20%)、項目1『集落規模の縮小と活動減少への対応』(18%)最後に項目2『役員等負担軽減と担い手の育成』(11%)の順となっています。ちなみに単位自治組織（区長回答）のアンケートの一番は項目1（23%）をあげています。

《「具体的に考えている事業や取り組んでみたい事業」の自由記述から一部抜粋》

- ・集落役員も高齢になっているので若返りをしたい。
- ・災害時の集落住人の安否確認。
- ・伝統行事や伝統文化を継承できるような体制（少子化や参加者の減少）。
- ・小学校が閉校し子供会活動が地域と密接に連携しているため手向独自が難しい。
- ・集落役員は年齢の輪番制を固定化し他集落の役員との交流を図ること。

問4. 貴町内会等の住民が安心して、楽しく暮らすために、どのような取組（事業など）が必要だと思いますか。

《自由記述から一部抜粋》

- ・高齢者の支援体制。
- ・災害時の集落住人の安否確認。
- ・自治防犯組織と連携した事業の構築。
- ・問う前に提案を。
- ・今ある行事や祭事の形を変えても継続していくことが重要であると思う。
- ・除雪、草刈等の軽減【労力】
- ・プライバシーの問題がなかなかむずかしい。
- ・若者世代がこの集落で生活したい（残りたい）と思う地域創りが必要だと思う。
- ・空き巣などの犯罪防止（日中家に居る人が少なくなっているため見知らぬ人がきてもわからない）。
- ・年2.3回位の集落の保守・安全点検の実施、集落全体でのフリーの話し合い、レクリエーション（全体での芋煮会・運動会の復活）。

問5. その他、地域コミュニティに関してご意見がございましたらご記入ください。

《自由記述から一部抜粋》

- ・現状維持を保ち悪化しないように。
- ・先ず、若者（後継者）が地区・地元で仕事（生活）ができる環境が重要だと感じます。また、子育て世代・高齢者に対して、安全・安心を提供できる政策をお願いします。
- ・人口増加しないと何をするにしても大変、企業誘致など若い人が地元に居れる環境づくり。

具体的な取組 鶴岡市地域コミュニティ推進計画 羽黒地域体系図



《目指す5年後の方向性（令和2年度）》

地域特性を活かした住民主体による持続可能な地域づくりを進め、住民の安全・安心な暮らしを確保するとともに、さらに心豊かな暮らしを築く

計画の柱	みんなで育てる羽黒の魅力、笑顔あふれる地域活動の推進		アンケート結果			
	羽黒地域	具体的な取組	実施した	効果あり	今後力をいれたい 代表	追加
◆ 共通計画 I 心の通い合う持続可能な住民組織づくり II 住民の安全・安心な暮らしの確保 III 住民主体による地域課題解決力の向上 IV 地域の特性を活かした魅力の維持・再発見	◆ 単位自治組織に係る課題と取組 ① 集落規模の縮小と活動減少への対応 ② 役員等の負担軽減と担い手の育成 ③ 子どもや若者の事業参加や活動の担い手を確保する環境の整備 ④ 福祉・防犯・防災等安全で安心な地域づくりの推進	①-1 集落規模の縮小と活動減少への対応 ①-2 住民自治組織の運営や事業内容の見直し ①-3 近隣の単位自治組織との連携や統合の検討	31%	21%	23%	18%
		②-1 役員の負担軽減につながる効果的な組織体制の見直し ②-2 役員を育成する仕組みづくり ③-1 若者のリーダー育成講座や研修会の開催 ③-2 若者が主体的に行う事業への支援 ③-3 子どもや若者の地域における活動の拡大による意識付け ③-4 活動内容や開催日の検討等伝統文化や行事が継承できるような環境づくり	33%	29%	21%	11%
		④-1 自主防災組織の機能点検と研修の開催 ④-2 広域コミュニティ組織と連携した事業体制の構築 ④-3 要支援者見守り体制の検討	44%	27%	17%	20%
	◆ 広域コミュニティ組織に係る課題と取組 ① 広域コミュニティ組織への理解と協力の促進 ② 単位自治組織等との連携と役割分担及び人材の育成 ③ 若者に魅力ある地域、子育てしやすい地域づくり ④ 防災拠点としての自主防災活動の推進 ⑤ 福祉・防犯体制の推進	①-1 広域コミュニティ組織の意義と活動内容のPR ①-2 広域コミュニティ活動についての研修会の開催や情報交換 ①-3 コミュニティビジネスの取組に向けた検討 ①-4 各種助成金等活用方法の検討 ①-5 会費制の導入の検討	54%	44%	21%	34%
		②-1 広域コミュニティ組織の単位自治組織への支援体制の構築 ②-2 地区住民の声を反映した「地域ビジョン」の策定 ②-3 地域課題解決のための情報交換や話し合いの実施 ②-4 人材の発掘や育成のための講座や研修会の開催 ②-5 広域コミュニティ組織連絡協議会の設立と組織間の情報共有・連携 ②-6 地域コミュニティに関わる団体・組織との交流や話し合いの実施	100%	100%	25%	0%
		③-1 雇用の場の創出・農業環境の改善や就農者への支援 ③-2 小学校と連携したコミュニティ活動の推進 ③-3 子ども達の郷土愛を育む教育活動の実践 ③-4 育児サークルや見守り隊等地域で子育てをする環境づくり ③-5 コミュニティビジネスの取組に向けた検討 ③-6 地域外から人材を呼び込むための検討	100%	75%	25%	25%
		④-1 情報伝達、情報収集方法の検討 ④-2 避難訓練や防災研修等の実施 ④-3 単位自治組織の自主防災会への働きかけや支援	100%	100%	25%	50%
		⑤-1 高齢者や要支援者の見守り支援体制の構築 ⑤-2 防犯体制の見直しと強化	100%	75%	0%	25%
			100%	100%	0%	0%